

「四国遍路ひとり歩き旅」

(1570) F/T

◎ 遍路への想い

退職したら自由気ままに旅をしたいと思っていた。退職した年の春には、東日本大震災で被災した東北三県を、翌年には北陸方面に一人で車に乗って旅をした。

被災地には人影はなく、ただ、瓦礫の山と、かつて人々が生活していた証である住宅や建物の跡が残るのみの無惨な姿であった。ようやく叶った旅ではあったが、自然の息吹や土地の文化、人との触れ合いが出来なかった。車で通り過ぎるだけで物足りなさを感じた。

四国には歩き遍路の文化が今も続いている。信仰心がある訳でもないが、歩いてみれば、車とは異なるもっと違うものが見えてくるのではと思った。若い頃、愛媛県に二回旅行したことがあり、その後の変化を見たいという気持ちもあった。ただ、費用や宿泊先をどうするといった問題もあり、何度も諦めかけた。遍路体験記を読んだり、四国遍路巡りのビデオを見て気を紛らしていた。しかし、どうしても遍路道を歩いてみたいという気持ちが強く、思い切って四国八十八ヶ所巡りに出発することにした。



結願の日 八十八番札所 大窪寺
4月16日香川・さぬき

以下はその概略である。

1. 日程

平成26年3月3日～4月17日（全45日 うち歩き日数43日）

歩き遍路に出るなら、春の季節がベストであるとガイド本に書いてあった。

2. 行程

四国八十八ヶ所霊場（徳島～高知～愛媛～香川）

歩行距離 約1,200km

3. 宿泊

民宿15軒 旅館13軒 ビジネスホテル9軒 その他6軒 計43泊

*宿坊のあるお寺や無料で泊られる善根宿を利用することも可能であるが、あえて利用しなかった。

4. 費用

宿泊代、昼食代、納経代など一日平均一万円以内とした。他に四国までの交通費や遍路用品代が必要。

5. 巡拝プラン

一日の歩行時間は10時間以内、歩行距離は25~30kmを目安とした。

朝7時頃、宿を出発し午後3時半頃に宿に到着するよう計画したが、宿のある場所の関係で多少のズレがでた。

6. 装備品

防寒衣、雨衣、着替えなど荷物は約5kg以内としたが、それでも重過ぎたので途中、一部の品は自宅に送り返した。

7. 事前の準備

◇ マメができないよう、大きめの軽登山靴を買い、1~2月にかけて小阿賀野川や能代川の堤防道路で足慣らしをした。山登りに備えて月例ハイキングコースを何回か往復して訓練をした。

◇ 般若心経を練習したが、リズムが分からないので、現地で他の人の読経を見聞きして覚えることにした。

◇ 宿は出発前に4日分を予約した。後は現地でその都度3~4日先まで予約するようにした。

8. 現金の携帯

郵便局のキャッシュカードを利用した。遍路路沿いには多くの郵便局があった。

9. 歩き遍路の感想

◇ 一番札所で菅笠、白衣、金剛杖などの遍路用品を買い、さっそく見につけ「にわか遍路」の出来上がり。団体遍路の脇で般若心経と一緒に唱むが、気恥ずかしく蚊の鳴く様な声しか出ない。

◇ 歩き遍路のために、詳細な遍路道が記載されたガイド本や、数多くの道しるべのお陰で大きく道を間違えることはなかった。ただ、市街地に入ると道しるべを見つけることができず、迷うこともあった。時は地元の人や他の遍路から教えてもらうこともあった。

◇ 宿はガイド本に登載された一覧表から選んだが、設備や食事など、当り・ハズレがあり、宿に到着してからの楽しみ?となった。

◇ 「遍路転がし」と言われる難所は、いずれも標高1,000mに満たず、思った程、苦にはならなかった。歩き始めた頃は早朝の寒さや雨・風にかなり苦しめられた。



二番札所金泉寺の本堂
3/4 徳島



海岸沿いで一休み
3/15 徳島



渡船に乗る
3/19 高知・種崎渡船場



焼坂峠の遍路道
3/21 高知・須崎



道端で足を休める遍路
3/21 高知・久礼



土佐湾沿いを歩く
3/23 高知・鹿島が浦



四万十川沿いの菜の花畑
3/24 高知・四万十市



歩き始めて22日
ようやく足摺岬へ
3/25 高知・土佐清水

- ◇ 遍路小屋（休憩所）は無人のものがほとんどであった。接待所を作って歩き遍路が通るのを待ち受けている所もあり、これは有難く飲み物やお菓子などの接待を受けた。また、住民や行き交う人からも声を掛けられたり、飲み物などの接待を受けることも何回かあった。ある時はお金を差し出す人もあり、最後の礼所に納めることにして預かることとした。
- ◇ 歩き疲れて到着したお寺の納経所や宿で、心温まる優しい言葉を掛けられると本当に歩いて良かったと思った。
- ◇ 遍路の目的、手段は人それぞれである。歩き遍路の多くは60～70代の男が多かったが、若い人や女性の一人歩き、外国人の姿もあった。2回、3回と巡っている人や先達と呼ばれるベテランの人も沢山目にした。宿や礼所で顔見知りになり、時には一緒に歩くこともあったが、ほとんど一人で歩いた。
- ◇ 信仰心もなく、ただ自分の欲望のために歩いた身であるが、本堂の前で跪いて祈る老婆を目にした時、また、参拝者のいない早朝、一心にお経を唱える地元の人に出合った時には、真の信仰の姿を見た思いであった。



50番札所 繁多寺にて
4月4日愛媛・松山

10. 旅の終わり

- ◇ 季節は春。満開の桜を見、鶯の鳴き声に導かれ、野を越え、山を越えた。果てしなく続く太平洋を眺め、海岸を、砂浜を歩いた。時には雨風に打たれ、季節はずれの雪に見も震えた。
- いつしか日にちも、曜日も頭に入らなくなっていた。
- ◇ 八十八番札所で、顔見知りの男性と互いの健闘を称え合い“また、いつの日にか、どこかで会いましょう”と別れた。



団体遍路と一緒に歩く
4月6日愛媛・西条

さすがに最後は踵^{かかと}がしびれるようになり、体重は5キロ減っていた。

しかし、無事、歩きとおしたことで、満足感で一杯であった。その日の夕方、高松駅前の焼鳥屋で一人、祝杯を挙げ、夜行バスで四国を後にした。

11. 参考

八十七番札所と八十八番札所の間にある「さぬき市おへんろ交流サロン」に立寄ったところ、歩き遍路に渡しているという“遍路大使任命書”なるものを頂いた。それによると、私は平成25年7月1日から数えて1,646人目の歩き遍路であることが判明した。

（おわり）



同世代の遍路と山道を歩く
4月8日 愛媛・西条